

牛角系岩津ねぎだより

令和4年8月5日
岩津ねぎ産地協議会
生産支援チーム

今年は、梅雨明けが例年より早くあけましたが、その後は、大気が不安定で局地的な降雨があり、排水対策が十分でないほ場では、湿害による葉先枯れも見られます。また、べと病、疫病、軟腐病の発生も散見されます。早急に防除を実施し、被害の拡大を防ぎましょう。

1 ベと病と疫病の発生が見られます、早めの防除を実施しましょう

① ベと病（糸状菌）の発生状況と病斑

梅雨の曇天、降雨の影響から、多くのほ場で見られます。

べと病は、土壤中で越冬した病原菌が、葉に寄生してカビの発生が繰り返され、被害が拡大します。連作ほ場で多く発生する傾向があり、病気の発生適温は20℃前後で降雨(多湿)が多いと蔓延します。

② 疫病（糸状菌）の発生状況と病斑

排水の悪いほ場を中心に、疫病の発生が見られます。

疫病は、梅雨後半から初秋期にかけて、特に夏期に発生しやすくなります。また、水媒伝染するので多雨が発生を助長するほか、多湿は発生に好適のため排水不良地で発生が多くなります。

台風など集中的に雨が降ると激発するので今後も注意が必要です。

また、窒素肥料を多用すると発病しやすいので、適正な施肥を行います。



【病斑】葉の中位や葉先に黄白色の不整形な病斑を生じ、病斑部は白く枯れて、罹病部分から葉が折れ曲がり、急速に拡大する。病変部と青白色の健全部分は、明瞭に区別される。

【薬剤例】注意：農薬使用の際は、ラベルの使用基準・注意事項を守って使用しましょう。

薬剤名	適用病害	使用倍率	使用時期	本剤の使用回数
リドミルゴールドMZ	べと病	1,000倍	収穫14日前まで※1	3回以内※2
プロポーズ顆粒水和剤	べと病	1,000倍	収穫14日前まで	3回以内
テーク水和剤	べと病、黒斑病、さび病	600倍	収穫14日前まで	3回以内※2

※1 リドミルゴールドMZはR3.4に登録変更で使用時期が「収穫30日前まで」から「収穫14日前まで」に変更されました。

※2 マンゼブを含む農薬「リドミルゴールドMZ」「テーク水和剤」の総使用回数は合わせて3回以内

2 軟腐病の発生が懸念されます、予防防除に努めましょう

★軟腐病は、葉が黄化し、株元が腐り簡単に引き抜け、腐敗臭がします。気温が30～35℃で多湿で発生しやすいため、局地的な降雨に注意しましょう。

<発生株を見つけた場合>

- 被害株は抜き取り、ほ場の外の持ち出し、ヨネポン水和剤の500倍液を散布する。

<発生していない場合>

- 昨年発生したほ場や排水の悪いほ場は、発生しやすいためオリゼメート粒剤を、中耕培土前に株元に散布し、土と十分に混和させ予防に努めましょう。

★使用量：オリゼメート粒剤 6kg/10a

(一作につき2回まで施用できます。)



軟腐病発生状況